

# \$\$明星(白川小だより)\$\$

HPで『白川小だより』  
をご覧ください。  
白川小学校で検索を!

令和2年1月27日発行  
第51号  
文責:三谷



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～



## \$ 税とは・・・ \$ ←1月23日(木)

鈴鹿税務署の方に来ていただいて、6年生の子どもたちが税について学習しました。日頃、子どもたちにとって税は、あまり馴染みのないものですが、身近な消費税のお話から税がどのような経路で集められ、そしてどのように使われている(学校では施設・設備、パトカーや救急車の維持等)のかなど税の仕組みについて新たな知識となりました。また、税の大切さについて気づきもありました。



## \$ 民生委員さんって・・・ \$ ←1月24日(金)

地区の民生委員さんを招いて、民生委員さんの活動について紙芝居を使って説明(お話)がありました。子どもたちにとって、なかなか馴染みのない民生委員さんの活動内容や意味についてわかりやすく説明をしていただきました。色々な人が地区で活動していることを再認識できる時間となりました。



## \$ 1年間の学習の振り返りを \$ ←1月22日(水) 国語・算数

5年生対象に「みえスタディーチェック」が行われました。「みえスタディーチェック」は

- 子どもたちが自らの学習内容の定着状況を確認して、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む。
- 教員が学習指導要領の趣旨や内容に基づき、子どもたちの学習内容の定着状況を把握し、授業改善及び一人ひとりに応じた指導の充実等組織的かつ継続的なPDCAサイクルを確立して子どもたちの学ぶ意欲や学力向上のための取り組みを行う。

ことを目的として実施しています。学校でも、「みえスタディチェック」の結果から子どもたちが分からない問題を把握して、「わかった」「できた」と実感できる学習内容の理解・定着につなげる取り組みを進めていきますので、ご家庭におかれましても、子どもたちも学習について1年間の振り返り(復習)の言葉がけをお願いします。

## ＄ 六年生を送る会の準備も着々と！！ －3月3日(火)

6年生の皆さんが白川小学校で学習・活動する日も一日一日と少なくなってきました。3月19日(木)の卒業証書授与式が最後の授業となります。今、3～5年生の子どもたちが六年生を送る会に向けて準備を進めています。実行委員会形式で係分担を決めて、友だちどうしで相談しながら準備物の作成に入りました。6年生の皆さんは1～5年生の気持ちのこもった発表を楽しみにしててください。さあ、今年はどんな六送会になるでしょう。



実行委員として活動するメンバーです  
鳥居 萌花さん、田中 奈月さん、田中 美月さん  
佐野 呼海さん、安部 ひなたさん

の5名が中心となって

六送会を盛り上げていってまいります。頑張ってください。

6年生の成長の記録や先生たちの出演もあります。←今年はどんな演目???



### 当日の日程(予定)

10:30	6年生入場
10:35	開会式
10:38	各学年の発表
11:20	先生の発表
11:35	卒業生からの発表
11:55	???
12:05	閉会式
12:08	6年生退場

## ＄ 今年もやります！！ －2月2日(日)9:30～14:00 明星祭

本校体育館で、白川地区まちづくり協議会主催で明星祭が行われます。

当日は、催し物として、

- ①手打ちうどん作り←家庭にある道具を使って、みんなでうどん作り
- ②白川そばを食べよう←名物白川そばをどうぞ 有料です
- ③美味しい食べ物、飲み物←肉まん、綿菓子、パン、コーヒー等(予定) 有料です
- ④手芸・卒業写真展示←小学校歴代の卒業写真
- ⑤フリーマーケット←農作物、自家製みそ、漬物、手芸品等

が出店されます。お時間がある方は、是非お立ち寄りいただければと思います。



### =白川小コラム=

#### 2月3日(月)は節分です【2月4日(火)は立春です】

「鬼は外！福は内！」で有名な節分の豆まきですが、「何故豆を投げるの？鬼は外！福は内！ってどういう意味？」子どもたちの質問は素朴ですが、鋭い質問です。そこで、今回は節分について考えてみたいと思います。

節分とは立春の前日の季節の分かれ目を言います。その起源は、中国で生まれた二十四節気という考え方です。1年間を24に分割して分割点に季節を表す名称がつけられています。二十四節気上で春夏秋冬それぞれの始まりとされる立春・立夏・立秋・立冬その前日が季節の分かれる節目で節分です。つまり節分は1年間に4回あります。

では、何故、豆まきなのか？については、昔は季節の分かれ目には「邪気」が入りやすいと考えられており、なかでも重要なのが「年の分かれ目」でした。旧暦では、立春の頃に新年のはじまりである元日がやってきたため、立春の前日の「節分」は「大晦日」にあたる1年の中でも最も大切な節目と考えられていました。古代中国では、現在の「大晦日」にあたる節分には、旧年の厄や災難を祓い清める

「追儺」<sup>ついな</sup>、「鬼遣」<sup>おにやらい</sup>という鬼を追い払う邪気祓いの行事が行われていたそうです。これが、奈良時代に日本に伝わり平安時代に宮中行事として取り入れられました。この宮中行事の「追儺」と邪気を祓うための春夏秋冬の節分に行われていた「方違え」<sup>かたなげえ</sup>行事の「豆打ち」という儀式が合わさったものが「豆まき」の由来といわれています。

